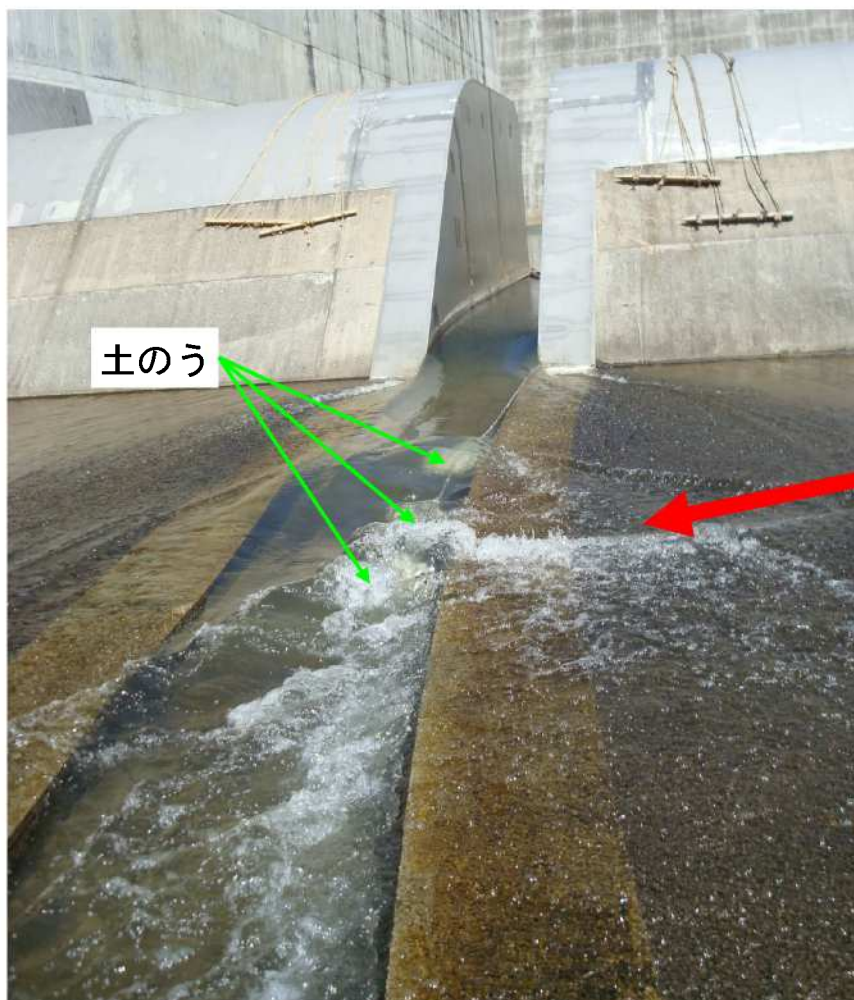


## 益田川ダムQ & A Q 2 排砂路の魚道機能の向上

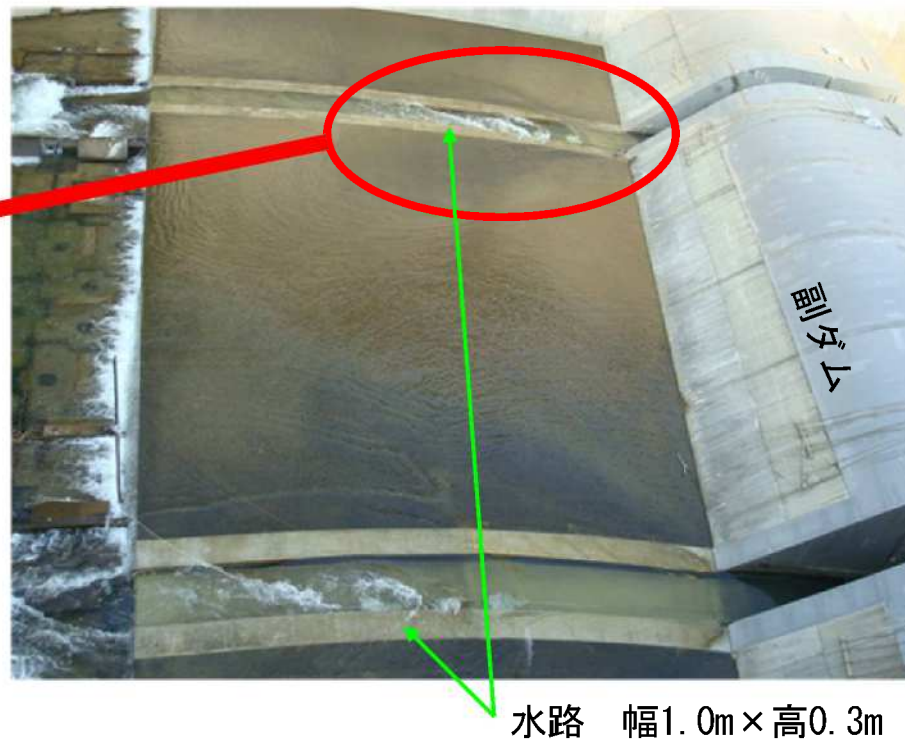
Q 2：排砂路の魚道機能の向上に関する取り組み

A 2：魚類などの水棲生物の移動をよりスムーズにするための取り組みを行っています。



### ■魚類の移動性向上への取り組み

試験的に下流水路部に土のうを設置し、水路の流速を選好流速に近づけることにより、魚類の移動性を向上させる取り組みを行っています。



## ■ ツガニ（モクスガニ）遡上への取り組み

ツガニは上流へ遡上するときに副ダム下流面のコンクリート部分を登って上流に向かっていますが、摩耗対策のためのステンレスを施しているため滑りやすいようで、登っているカニの数に比べこれを乗り越えて上流に到達できるカニは多くない状況です。

このため、上流への遡上を助けるために、試験的に副ダムにロープをたらしめました。

材料は、洪水時に下流に流れ出ても自然に優しいワラで編んだロープを使い、ロープを固定する材料も木材とし、左岸側のスリット両側に施工しました。

ロープ施工3週間後、カニがロープを使って副ダムを登っているのを確認しました。



### モクスガニとは

甲幅50～70mm程度の中型のカニで、日本全域の河川、汽水域、沿岸などに生息しています。

両方のはさみに柔らかい毛が生えているのが特長で、これによって「ケガニ」とも呼ばれます。また島根県では「ツガニ」とも呼ばれています。産卵のためにアユと同様に親ガニになって陸海したり、稚ガニで溯上したりします。

